

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	吉備野 古(いにしえ)ツーリズムプロジェクト		
(2) 実施団体名	NPO法人吉備野工房ちみち	(3) 対象地域	岡山県総社市
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	総社市役所

(6)実施した取組の内容	取組①	吉備野 古の食卓事業		
	実施主体	NPO法人吉備野工房ちみち		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		吉備野(=総社)に古くから伝わる伝統的な食材の発掘を行い、その食材を利用して商業利用可能なレシピを考案する。		予定していた内容について全て実施することができ、地域住民の方々に吉備野の食文化への見直し及び商業的な利用についての再考を促すことができた。
		①伝統的食材、総社特有の地場産品に関する調査・資料収集及び発掘		①「吉備の三白(さんぱく)」のうち備中白大豆・備中白小豆、また黒米、赤米、薄荷などについての調査及び生産者へのヒアリングを実施。
		②伝統的食グループとのワークショップ開催		②③食のワークショップ及び講演会を開催(H20.12.19、28名参加)。
		③郷土色豊かなレシピ考案及び勉強会の開催		③吉備野食材を使った弁当・スイーツ・料理を考案・試作し、取組③(体験交流プログラム)にて、参加者による試食とアンケートを実施。
	④レシピの試作と発表会開催(事業全体の報告を含む)		④④玉豆腐レシピ考案を専門家に依頼。また、レシピコンクールとして一般公募(H20.12.21~H21.1.20、応募総数59作品)も行い玉豆腐のレシピを作成。	
	⑤レシピ集の作成		④「吉備野 古ツーリズムプロジェクト シンポジウム」を開催予定(H21.2.28、約100人規模)。	
			⑤上記結果からレシピ集(300部)を作成、シンポジウムにて発表・配布予定。	
取組②	吉備野 NEOブランド事業			
実施主体	NPO法人吉備野工房ちみち			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	吉備野の伝統的な素材や物語を活かし、高い付加価値を見込める特産品の開発とデザイン等を考案する。		市場調査を予定していたが、付加価値のある商品のリスト作成が重要と考えリスト作成に変更。その他の内容については計画どおり実施し、地域事業者が持っている商品の特産品化に向けた意識の醸成につながっている。	
	①特産品開発に必要な市場調査		①地域事業者に対しアンケート調査を実施するなどにより、特産品化が可能な商品のリストを作成し、事業者の絞り込みを行った。	
	②生産者の発掘及びワークショップの開催		②講演会とワークショップを同時開催(H20.12.12(36名参加))、ワークショップ開催(第2回:H21.1.9(7名参加)、第3回:H21.2.7予定)。	
	③伝統的な素材や物語を活かした特産品開発		③地域事業者の協力により、特産品の試作を3品開発。	
④特産品のパッケージデザイン作成		④ワークショップ及び外部委託によりパッケージデザイン6品完成予定。		
取組③	吉備野体験 みちくさ小道事業			
実施主体	NPO法人吉備野工房ちみち			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	吉備野の生活文化を表現する体験交流プログラムの開発・実証と、ガイド人材の育成を行う。また、商人・店舗貸し主ともに素人が行う「商いトライアル」などにも取り組む。さらに、地域SNSネットワーク構築による地域住民らとの連携を進める。		予定していた内容について全て実施することができたが、地域SNSの活用手法については、吉備野の住民相互の交流と情報発信の方向性を試行錯誤しており、次年度の課題である。	
	①開発した体験交流プログラムの実証実験(H20.9~10)		①事業実施前から開発していたプログラムの実証実験を実施(H20.9.27~H20.10.24、15プログラム、284名参加)し、アンケート調査を行った。	
	②ガイド育成に必要な地元人材の発掘及び育成		②実証実験のガイドを募集し、研修会等を実施し実践した。	
	③「商いトライアル」の実施		③実証実験の中で、ロハスな石鹸やフラワーアレンジメントのプログラムによりプロモーションを実施。	
	④先進地視察		④別府市のイベント参加及び企画者と交流(H21.1.16~18、3名)し、イベント企画及び開催状況を視察。	
	⑤地域の生活文化を表現する体験交流プログラムの開発		⑤実証実験のアンケート結果、先進地視察等を踏まえ新しく10プログラム以上を開発予定。	
⑥地域SNS構築		⑥外部委託により地域SNSを構築し、実施主体のホームページで発信中。		

(6)実施した取組の内容	取組④	吉備野 古ステイ事業
	実施主体	NPO法人吉備野工房ちみち
(7)実施体制	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容、実施結果	<p>吉備野の歴史や風土を感じさせる民泊・寺社泊等の体験滞在型宿泊モデルの調査および実証を行う。受入可能な施設の調整や参画したい住民の目処、実施に当たってのマニュアル作成、事業化に向けて解決すべき課題の整理を行う。</p> <p>①先進地視察</p> <p>②民泊・寺社泊、空き家活用等の受入に関する調査・分析</p> <p>③民泊・寺社泊等受入住民とのワークショップ開催</p> <p>④民泊・寺社泊等の体験滞在型宿泊モデル実証実験(H21.2)</p> <p>⑤民泊・寺社泊等受入マニュアルと事業化計画の策定</p>
(8)取組により得られた成果	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
	<p>NPO法人吉備野工房ちみちが中心となり、自治体等の協力を得て実施。また、各取組に地域事業者等が参画。</p> <p>実施主体：NPO法人吉備野工房ちみち</p> <p>協力団体：総社市、岡山県、商工会議所、岡山県産業振興財団</p> <p>取組①：サン直広場ええとこそうじゃ、柏原商店他6団体</p> <p>取組②：岡山県立大学、総社市観光協会他8団体</p> <p>取組③：観光ボランティア、備庵他12団体</p> <p>取組④：宝福寺、民泊体験者他3団体</p>	<p>・実施主体を中心に、協力団体、参画団体の協力を得て全ての取組を遂行することができた。</p> <p>・協力団体においては、ホームページやチラシでのイベント周知などPR活動を中心に協力が得られたことにより、実施主体が地域に認知され、取組が地域に浸透してきている。</p> <p>・取組①及び②では、参画団体のネットワークなどにより、参画団体以外の事業者からも協力が得られ、目標が達成できた。今後は行政が関わりにくい商業ベースでの体制作りにも力を入れていきたい。</p> <p>・取組④では、実施主体が、現地調査やヒアリングを行って宿泊施設の掘り起こしを行った。今後は参画団体との連携を強化して取り組みを進めることが重要。</p>
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 伝統食材の発掘と商業利用可能なレシピの提案	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	<p>・吉備野に伝わる伝統食材 2</p> <p>・商業利用可能なレシピ なし</p>	<p>・吉備野に伝わる伝統食材の5以上の発掘</p> <p>・商業利用可能なレシピ10種以上の提案</p>
	H20(実際に得られた成果)	
	<p>・「吉備の三白」のうち備中白大豆・備中白小豆、また赤米、黒米、薄荷など歴史や現状について調査し、伝統食材として5品選定した。</p> <p>・吉備野特産の玉豆腐を使ったレシピの考案を専門家に依頼したのに併せ、コンクールとして一般公募を行い(59作品の応募)、この中から優秀作品やユニーク作品など10種程度をレシピ提案したい。レシピについては、専門家作品と優秀作品の6種についてレシピ集(300部)により普及・啓発予定。</p>	
	○成果2→ 特産品の開発とデザインの考案	
H19	H20(当初予定していた目標)	
<p>・散発的にはあるが体系的でない</p>	<p>・吉備野の伝統的な素材や物語を活かした特産品3品以上開発</p> <p>・パッケージデザイン5品以上作成</p>	
H20(実際に得られた成果)		
<p>・地域事業者と実施主体による試行錯誤により吉備野スイーツ及び特製弁当の試作品3品を開発した。</p> <p>・市内6業者(6品)のパッケージデザインを作成し提案予定。</p>		

(8)取組により得られた成果	○成果3→体験交流プログラムの開発とガイド人材の育成	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	・生活文化体験交流プログラム なし ・ガイドの高齢化が問題になっている	・地域の生活文化を表現する体験交流プログラム10種以上開発 ・ガイド人材10人以上育成
	H20(実際に得られた成果)	
	・実施主体が事業実施前から開発していた15プログラムを実施し、アンケート結果、先進地視察などにより新しく10プログラム以上の開発予定。 ・ガイド人材候補者として、大学生、実施主体のスタッフを含め15人を育成中。	
	○成果4→民泊・寺社泊施設の開発	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	H19	H20(当初予定していた目標)
	・民泊、寺社泊施設 なし	・民泊、寺社泊施設3以上開発
	H20(実際に得られた成果)	
	・実施主体による現地調査及びヒアリングなどにより、寺社泊施設1箇所、農村民泊施設3箇所の開発ができた。今後は、商家民泊についても開発したい。 ・モニターツアー実施により、問題点等が明らかになったことから、体験滞在型宿泊モデル事業の展開に期待が持てる。	
	・地域活性化の中心として考えている吉備野体験「みちくさ小道」事業については、今年度事業において吉備野地域の参加者が90%を超え、地域の再発見につながり好評を得た。特に、街歩きや地域巡りなどを行ったことにより、地域住民の景観及び環境の保全についての意識を芽生えさせることにつながった。 ・体験滞在型宿泊モデルについては、「みちくさ小道」事業の体験プログラムや農村地域体験と商店街との連携により相乗効果が見込まれるが、それを受け入れる体制整備の確立を図る必要がある。 ・伝統食材及び特産品についても、地域内への普及・浸透はもちろん、地域外への情報発信が不可欠であると同時に開発・商品化・販売ルートを見据えた取組が重要であり、そのためのネットワーク構築が必要である。	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	1. コミュニティ・ビジネスなどの担い手人材・事業者を育成する中間支援的事業を開始(平成21年度)	1. 吉備野体験「みちくさ小道」事業の定例化と、「地域再生プラットフォーム」として地域資源を活かした集客交流型のコミュニティ・ビジネスなどの担い手人材・事業者を育成する中間支援的事業を開始(平成21年度)。 ・吉備野体験「みちくさ小道」事業の定例化のためには、今年度開発した農業体験を含めた新しいプログラムの実証実験が必要。 〔活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額200万円)〕
	2. 事業の本格展開の開始(平成21~22年度) ・特産品販売 ・地域型旅行エージェント事業(自主事業および育成された人材・事業者による事業)	2. 事業の本格展開の開始(平成21~22年度) ・特産品パッケージの商品化、吉備野ブランドの確立、販売ルートの開拓など、商業ベースに沿った具体的な展開を計画しており、試験販売などの実証実験が必要。 ・体験滞在型宿泊モデルを成熟させ、大手旅行会社とのネットワーク構築などを図ることにより地域型旅行エージェント事業に発展させる。そのためには、モニターツアーの追加実施や吉備野地域のPR活動などが必須条件。 〔活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額500万円)〕
当初提案なし	3. 景観・環境保全活動による協働型交流活動の基盤強化(平成21年度) ・美しい景観づくり、祭りの復活など、都市と農村の協働による環境保全活動を行うことにより、従来の観光・参加型から協働型の交流活動への転換が重要である。これらの活動を持続的安定的なものにするためには、人材の育成、都市と農村とのマッチング、運営方式の仕組み、体制づくりが必要であり、新たな活動やイベント等の実証事業を通じて、そのノウハウを構築したい。 〔活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額800万円)〕	

吉備野 古(いにしえ)ツーリズムプロジェクト(岡山県総社地域) —NPO法人吉備野工房ちみち—

◆主な実施取組の内容◆ (実施主体:NPO法人吉備野工房ちみち)

取組①吉備野 古の食卓事業
取組②吉備野 NEOブランド事業
上記取組により、吉備野の伝統食品の玉豆腐を使ったレシピ集及びパッケージデザインの提案を予定

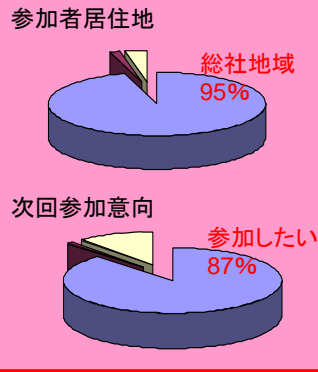
古の食卓



NEOブランド



取組③吉備野 体験・みちくさ小道事業
上記取組により、有用な人材・場所・物・ネットワークを発掘、市内だけでなく、市外の人々にも生きた吉備野を体験してもらうことができた。また「商いトライアル」やガイド育成の実施により、受身ではなく主体的に地域を盛り上げていこうという意識が生まれた。



山陽新聞 WEB NEWS
地域にWEBニュース
いよいよ総社WEB日誌

「みちくさ小道」結成、西三河町幸、アースが主体
町歩きや農道、アースを通じて、西三河の歴史文化に触れる体験交流事業「みちくさ小道」が二十七日、西三河町で結成された。参加者は町歩き、農道で多岐にわたる体験活動を行う。

町歩きや農道、アースを通じて、西三河の歴史文化に触れる体験交流事業「みちくさ小道」が二十七日、西三河町で結成された。参加者は町歩き、農道で多岐にわたる体験活動を行う。

町歩きや農道、アースを通じて、西三河の歴史文化に触れる体験交流事業「みちくさ小道」が二十七日、西三河町で結成された。参加者は町歩き、農道で多岐にわたる体験活動を行う。

取組④吉備野 古ステイ事業
地元の商店街や農村へのきめ細かなアンケート調査を行い、既存の観光名所や施設などを組み合わせることにより、吉備野に埋もれていた農村地域の歴史ある建物群や風景を活かした体験滞在型宿泊モデルの開発ができた。併せて、子どもの農業体験モニターツアーを実践した。モニターツアーの結果により、受入マニュアルと事業化計画を策定予定。



◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・「古の食卓」「NEOブランド」「みちくさ小道」「古ステイ」各事業を通し、住民自らが地元の魅力を再発見・再認識し、「吉備野」というひとつの意識、ネットワークが生まれつつある。
- ・美しい景観づくりなど、都市と農村の協働による環境保全活動に対する住民意識も芽生えてきた。
- ・従来の観光・参加型から協働型の交流活動へ転換し、活動を持続的安定的なものにするために、人材の育成、都市と農村とのマッチングなどの運営方式の仕組み、体制を構築したい。

